

調査報告書

- 1 とき：2014年4月23日～24日
- 2 行先：静岡県（歩道橋型津波避難タワー）・静岡市（待機児）・東京都（東京大空襲・戦災資料センター）など
- 3 参加者：山口清明、岡田ゆき子、政務活動補助員（浜田）
- 4 主な内容

【静岡県吉田町 歩道橋型津波避難タワー】

- ・ 2013年9月に第一号が完成した歩道橋型津波避難タワー、現在15基完成した。町の津波避難計画はまず命を守る避難施設の確保、次に財産、生産活動への被害を最小減にとどめる防災施設の整備、そして災害発生時の支援、と優先順位が明確。浸水予想区域の1万7千人が5分で避難できるように19地域にきめ細かく避難場所を設ける計画。土地探しの手間を省きスピード感もって対応するために道路空間を利用した。法令改正などクリアしてきた小さな町の知恵と工夫に敬意を表したい。



歩道橋型の津波避難タワーK（要避難者数昼 949人、夜 1122人）



片車道型の津波避難タワーC（要避難者数昼 1081人、夜 875人）

【静岡市待機児童園 おひさま】

- ・ 静岡市は待機児童対策として、待機児童（乳児）を専門に保育する公立保育園をつくり、現在3園まで拡大している。待機児童の解消に市として直接責任を果たす方法の一つ。実際には、預かる児童の対象を厳しく制限（両親どちらもフルタイム）していることや、行事や父母の交流がないなど保育内容に弱点も

ある。が乳児専門の落ち着いた保育環境と公立の安心感は評価できる。

【静岡市役所】

- ・ 党静岡市議団との懇談もふくめて、子ども・子育て支援新制度への対応として、静岡市が公立の全保育園と幼稚園を認定こども園に再編する計画についても、待機児童対策とあわせて率直に意見交換した。
- ・ なお党市議団と、リニア新幹線計画についても情報交換した。

【静岡県 地震防災センター】

- ・ 静岡県直営の防災センター。発災時の支援部隊の宿泊機能や、防災士養成の研修機能などもある静岡県の地震防災の総合センター。単なる啓発センターではない。もちろん啓発用の展示や体験ブースにも工夫が凝らされていた。津波のシュミレーション映像や浸水被害想定地図表示もリアル。名古屋の防災センターのあり方を考えるうえで参考になる。

【輝け！いのち4. 24ヒューマンチェーン】

- ・ 東京日比谷野音 医療介護総合法案など安倍政権の社会保障解体攻撃に対して、市民有志の呼びかけにこたえて5千人が集う一大集会。名古屋市での医療や介護の行末も左右する大事な課題であり、集会に参加し、厚生労働省に向かってシュプレヒコールをあげた。

【東京 東京大空襲・戦災資料センター】

- ・ 民間民営の戦争博物館。東京大空襲の被害の実相を展示している。名古屋市などがつくる「戦争資料館」について考えるうえでたいへん参考になった。専任の学芸員を配置し、展示だけでなく研究活動にも取り組むことが展示内容を意味あるものにするためにも重要である。都市への無差別爆撃についての研究をすすめることで戦争の加害責任も考察の対象になる。被害の実相をきめ細かく掘り起こしていくなかで軍需工場や朝鮮人動員なども問題提起できる。各地の平和博物館ネットワークに参加することも視野を広げるうえで欠かせない。
- ・ 先進的な博物館をよく調査したうえで、名古屋の独自性を発揮できる資料館にしていきたい。